

都区市町村情報セキュリティクラウドの運用状況について

サイバー攻撃に対する情報セキュリティ対策を強化するため、東京都及び都内の各区市町村のインターネット通信について、都区市町村情報セキュリティクラウドを経由して行う運用を平成 29 年 7 月に開始している。運用開始から約 1 年経過することから、平成 29 年度の運用状況について、下記のとおり報告する。

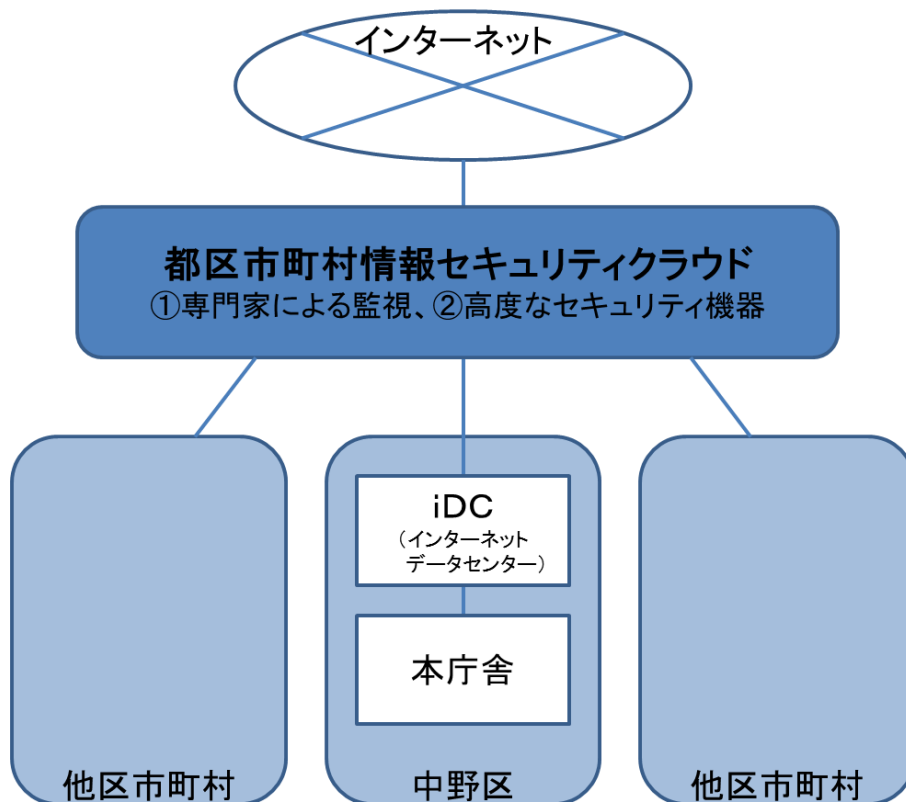
記

1 都区市町村情報セキュリティクラウドの概要

(1) 内容

総務省が示した情報セキュリティ強化策の一つとして、都道府県が各区市町村のインターネット通信を集約し、セキュリティの専門家による高水準な運用監視や高度なセキュリティ機器の共同利用による高度なセキュリティ対策を実施することとされた。

(2) イメージ図



2 セキュリティ監視センターで検知した脅威の状況

(1) 不審メールやウイルス検知の傾向

平成29年度を通して、ばらまき型不審メールが断続的に観測された。

攻撃手法が、メールの添付ファイルにウイルスを潜伏させる手法から、メール本文中に不正なサイトのURLを表示する手法へと徐々に変化するとともに、メールの送信元情報を詐称したメールなど、攻撃手法がより精巧になる傾向がみられた。

(2) セキュリティ監視センターの分析結果

いずれの攻撃も都区市町村情報セキュリティクラウドにおける複数の防御策によりブロックされており、攻撃が成功した事例はなかった。